

第4回 (仮称) 新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨

日 時：平成30(2018)年11月19日(月)13:30~15:30

場 所：大田区役所 9階902会議室

出席者：大下委員長、石坂委員、伊藤委員、河野委員、杉村委員、中條委員、
平井委員、平江委員

※ 五十音順(委員長除く)

1. 開会

事務局から、開会が案内された。

2. 前回の討議内容について

資料1「第2回(仮称)新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨」などに基づき、前回の討議内容について、事務局から確認が行われた。

3. (仮称) 新大田区観光振興プラン(素案)について

資料2「事業者ヒアリング・庁内アンケート・ヒアリングの結果概要(最終報告)」及び「(仮称)新大田区観光振興プラン(素案)(骨格版+本編)」に基づき、現行プランの振り返りについて、事務局から説明が行われた。

(委員長)

- ・ 資料2は(仮称)新大田区観光振興プランに添付されないという理解で良いか。

(事務局)

- ・ 参考資料に添付する可能性がある。

(委員)

- ・ 資料2の内容を公表する場合はもう少し表現を見直したい。

(委員長)

- ・ 資料2の内容を公表する場合、表現等の精査をお願いしたい。

(委員長)

- ・ (仮称)新大田区観光振興プラン(素案)について、本委員会に諮っていない点二つある。一つは第3章「2. 大田区観光の目標」である。もう一つはKPIの設定である。観光入込客数等のKPI※の設定に懐疑的に思っていたため、本委員会では議論しなかった。しかし、やはり目標値を定める必要があるとのことで、指標設定を行った。本日はこの2点も含め、まず第1~3章について議論し、その後は第4~5章について議論したい。

※ 重要業績詳細指標：Key Performance Indicator

(委員)

- ・ 第3章「1. 観光に取り組む基本原則」の「(4) 観光危機管理」という見出しに違

和感がある。(1)～(3)の見出しの表現ともう少し整合性を取った方が良い。

- 資料3(骨格版)の「大田区観光の推進の4つの基本原則」のイメージ図について、「地域住民のふるさと意識」と「観光エリアマネジメント」の間にある台形は何を意味するのか。

(委員長)

- 地域住民のふるさと意識に関するこれまでの取組をより広げて、観光エリアマネジメントにつながることを意味する。

(委員)

- イメージ図をみると、これまでの取組が終了したとの印象を受けてしまう。これまでの取組がこれからも継続するものとして、表現を見直した方が良い。

(委員)

- 第3章「目標達成に向けた指標の設定」では、ウェルカムショップ登録数、まちかど観光案内所登録数が指標として挙げられている。これらの数を増やすだけで大田区の観光が活性化されると言えるのか。実効性のある指標とする必要がある。

(委員長)

- 大田区観光の3つの意義に対応して、それぞれに指標を設定した。
- ウェルカムショップ登録数やまちかど観光案内所登録数の増加は、地域への来訪者数の増加を意味するものとして、取り上げられたのではないか。

(事務局)

- ウェルカムショップ登録数とまちかど観光案内所登録数という2指標については、パンフレット配布数等の指標も含めて検討したい。

(委員)

- ウェルカムショップとまちかど観光案内所には、大田観光協会が発行したパンフレットも届けている。配布状況を分析することで、パンフレットを必要としている人の傾向を把握することができる。パンフレットも量が限られているため、有効的に活用する必要がある。これは指標に設定した上で活用方法を検討することが重要である。

(事務局)

- 指標の設定は非常に難しい。委員の指摘を踏まえて指標の設定を検討したい。

(委員)

- 「まち歩きプログラムの充実と産業特性を活かした観光魅力の創出」(2ページ)では、「見学型資源」という記述がある。航空会社の整備場や物流会社の大規模な物流拠点は見学可能であるが、見学を目的とした施設ではない。これらの民間施設については、所有者に確認した上で記載すべきである。
- 「(4)観光危機管理」(10ページ)では、「テロ事件が起きた場合」という記述がある。テロのリスクは意識する必要があるが、区として具体的な取組を行うこと

が難しいのではないか。

(委員長)

- ・ 東京都の観光に関する審議会では、サイバーテロに関する議論があった。しかし、サイバーテロは東京都に限った話ではなく、国を挙げて対応する必要がある。テロを意識する必要があるが、観光振興プランに盛り込まなくても良いと思う。

(委員)

- ・ アルファベットは全角で書かれている。途中で改行となる場合はわかりにくい。
- ・ 「(3) 大田区の地域特性を活かした観光の推進力の結集」(4ページ)には「ハイツ」という表現があるが、見直すべきである。
- ・ 年号が変わる予定であるため、目標年次等は西暦で記載した方が良い。

(委員)

- ・ シティプロモーションでは、区民の愛着度を向上させることが大きなポイントとして挙げられている。
- ・ 資料3(骨格版)2(2)「地域住民の観光に対する意識」について、意識をどうするかがわかるような表現にした方が良い。

(委員長)

- ・ 資料3(骨格版)の「(2) 大田区の目標」にある「ワンダーシティ」という表現について意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 大田区観光の目標について、副題を含めて長いと感じる。

(委員)

- ・ おおたブランディングシティプロモーションでは、ユニークおおたをキーワードにしようとしている。計画間の連携も必要だと思う。異なる言葉を使う場合はその違いが何かという問題が生じる。

(委員長)

- ・ ワンダーシティという言葉はこれまで使われているか。

(事務局)

- ・ 大田区観光推進連絡協議会が昨年度に作成した日本語版のポスターは「ワンダーシティ」という言葉が入っている。
- ・ 見直しが必要と考えているため、委員の意見を踏まえて検討したい。

(委員長)

- ・ ワンダーという言葉は少し古い気がする。
- ・ 「日常にかくれた、どこにもない非日常」という表現もわかりにくい。

(委員)

- ・ 区民が当たり前と考えているが、外から見ると魅力的だということを意味してい

るのだろう。

(委員)

- ・ どこにもないものに出逢えるから「ワンダー」ということだろう。

(委員長)

- ・ いろいろな人から見たらどこにもない非日常が日常的にあるということを言いたいのか。
- ・ シティプロモーションのユニークおおたという言葉はどのような趣旨で使っているか。

(事務局)

- ・ ユニークは「唯一の」という意味で使っている。
- ・ 委員の指摘を踏まえ、目標に関する表現を見直したい。

(委員長)

- ・ 「生活(いきいき)観光都市」という表現を引き継ぐことについては合意していると思う。「あふれる地域力を出迎える 世界にはばたく」を修飾語としてとらえれば、現状のままでも良い。
- ・ 副題をつけることでわかりにくくなっているため、副題については見直しが必要である。

(委員)

- ・ 観光に取り組む基本原則の「愛着・誇り・自信のもてる区民のふるさと意識(帰属意識)の向上」について、羽田の祭りはまさに愛着・誇り・自信のもてる祭りである。地方にいる人(羽田出身者)が必ず祭りの際に戻ってくる。羽田空港跡地の再開発で整備される施設等と連携することで観光資源化ができるのではないか。
- ・ ハワイに神輿を数回持っていたことがある。今後は東南アジアにも持っていき、東南アジアからの誘客を検討したら良いのではないか。

(委員長)

- ・ 計画の中に第三者的な表現がある。区が主体であるため、言い切る必要がある。表現の見直しについては事務局に一任していただきたい。
- ・ 「観光危機管理」について表現を見直したい。
- ・ 大田区観光の目標については、もう少しわかりやすい表現に見直したい。
- ・ 指標設定について、委員の意見を踏まえて引き続き検討をお願いしたい。
- ・ 次は第4章と第5章についてご意見いただきたい。
- ・ 第4章「(2) 安心・安全・快適な来訪者に寄り添う受入環境づくり」を「来訪者に寄り添う安心・安全・快適な受入環境づくり」に修正してほしい。

(委員)

- ・ 4つの基本原則は目標とも捉えられる。基本戦略ではこうした目標をどのように実現するかが書かれている。基本原則と基本戦略の両方に「観光エリアマネジメント」があることに違和感がある。
- ・ 観光エリアマネジメントの定義は難しい。観光エリアマネジメントに人材育成も

含まれるのであれば、「(6)『大田区観光』を推進する人材・体制・環境づくり」も該当してしまう。

- ・ 基本原則に則って取り組むのであれば、「愛着・誇り・自信のもてる区民のふるさと意識(帰属意識)の向上」には、「(1)観光エリアマネジメントにもとづく都市観光の促進」が対応する。「来訪者(ターゲット)の観光行動を意識したプロモーション・観光商品づくり」には、「(3)シティプロモーションと連携した来訪者に訴求する情報発信」、「(4)大田の魅力を隅々まで楽しみ、特徴を魅せる仕組みづくり」、「(5)『大田区らしいM I C E』の確立に向けた展開」が対応する。「観光エリアマネジメントによる観光振興の継続的展開」には、「(1)観光エリアマネジメントにもとづく都市観光の促進」、「(6)『大田区観光』を推進する人材・体制・環境づくり」が対応する。「観光危機管理」には「(2)安心・安全・快適な来訪者に寄り添う受入環境づくり」が対応する。
- ・ 基本戦略の順番を見直した方が良いのではないか。

(委員長)

- ・ 基本原則に対応する基本戦略が1つとは限らない。

(委員)

- ・ 重なること自体は問題ない。

(委員長)

- ・ 東京都は、①旅行地として世界的な認知度を高めること、②来訪者が楽しめる旅行体験をつくること、③世界一のおもてなし都市・東京を実現すること、を来年度以降に取り組む予定である。これについて、ある委員は来訪者が情報発信する時代であるため、「②来訪者が楽しめる旅行体験をつくる」ことを先に実施した方が良いと指摘した。
- ・ 東京都での議論を踏まえると、(仮称)新大田区観光振興プランでは、「(1)観光エリアマネジメントにもとづく都市観光の促進」と「(3)シティプロモーションと連携した来訪者に訴求する情報発信」の順番を下げ、先に基本戦略に言及しても良い。「(1)観光エリアマネジメントにもとづく都市観光の促進」と「(6)『大田区観光』を推進する人材・体制・環境づくり」が連続して出てくれば、違和感がないだろう。

(委員)

- ・ 第4章の基本戦略の順番を変えるのであれば、第1章の「シティプロモーションと連携した観光振興」の順番も変えた方が良い。

(委員長)

- ・ 今のスタンスから言うと、順番を下げてても良いかもしれない。

(委員)

- ・ 第4章「1. 観光エリアマネジメントにもとづく都市観光の促進」(13ページ)では、「空港処理能力の拡張」という表現があるが、「拡張」を「拡大」や「増強」等に修正した方が良い。

- ・ 「2-1. 多様なニーズの受け皿となる宿泊施設の展開」の施策①（15 ページ）では、「違法民泊の取り締まりを強化」することが先に書かれている。ネガティブなことよりもポジティブなことに先に言及した方が良いのではないか。

（事務局）

- ・ 大田区では、特区民泊について安全・安心をうたっている。手続きの簡素化や要件の見直しに関する検討は現在行っていない。関連記述を見直したい。

（委員長）

- ・ 宿泊施設のバリアフリー化に言及することについて、検討をお願いしたい。
- ・ 公共施設や交通機関等のバリアフリー化が進んでいるが、宿泊施設におけるバリアフリー対応は改善の余地がある。東京都はバリアフリー化に向けた補助を考えているようである。

（委員）

- ・ バリアフリー化に関する補助金は何年も前から出ているが、基準が非常に厳しい。800 万円上限とする 1 / 2 補助であるため、宿泊施設側の負担が大きい。施設の改修等に合わせて行わなければ、補助金としては活用しにくい。

（委員長）

- ・ これまでの補助金とは異なるものである可能性もあるため、活用可能かどうかを検討していただきたい。

（委員）

- ・ バリアフリーというと物理的なものに注目しがちである。サインやおもてなし等も含めるとユニバーサルデザインの取組例が増えている。ユニバーサルデザインの方が良いのではないか。

（委員長）

- ・ 観光庁によるユニバーサルツーリズムの推進に伴い、対象が広がりすぎた面がある。最初は障害者を対象としていたが、次に言語の壁ということで外国人も対象となった。現在は妊婦、小さな子どもを持っている旅行者などまで対象が広がった。
- ・ バリアがあることを意識することが重要との観点から、ユニバーサルデザインとバリアフリーを使い分けた方が良いと思う。

（委員）

- ・ 「2-1. 多様なニーズの受け皿となる宿泊施設の展開」について、大田区が宿泊施設を展開すると読めてしまう。特区民泊に限定した方が良いのではないか。
- ・ 宿泊客はやりたいことを決めた上で大田区を訪れることが多い。「宿泊施設が地域の観光へ貢献する仕組みづくりを行う」と言ってもどこまでできるかがわからない。現時点、宿泊施設としてできるのは宿泊客に聞かれた際に飲食店等を案内する程度である。大田区の場合、宿泊客はビジネス客が多く、行き先を決めていない観光客はほとんどいないだろう。宿泊客が大田区を訪れる前の段階で大田区内

を観光してもらうこと選んでもらう施策を講じる必要があるのではないか。

(委員長)

- ・ 検討をお願いしたい。

(委員)

- ・ 体制の記述については、「(6)『大田区観光』を推進する人材・体制・環境づくり」では、1ページ程度の分量であり、他と比べてやや少ない。
- ・ 具体的には、どのように体制づくりをしていくかについて、現時点の区の考えを示してもらいたい。

(委員長)

- ・ 区の計画として書きにくい点がある。
- ・ 大田区観光振興の推進イメージ(32ページ)では、大田観光協会を中心に位置づけている。
- ・ 大田観光協会と大田区観光連絡推進協議会に対する支援を6-3として加えてほしい。
- ・ 東京都では、観光まちづくり関係で全額補助する事業がある。黒湯温泉のある若い事業主が東京都の支援を受けたことがある。例えば観光エリアマネジメント協議会を任意でつくれば、東京都の支援を受けることも可能となる。

(事務局)

- ・ 大田区観光を牽引するのは大田観光協会である。自立性の問題が残されている。今後、自主事業をどの程度展開していくか。事業者が大田区観光協会を頼りしながら事業を展開していくか。これらは今後の大きな課題と捉えている。

(委員)

- ・ 大田観光協会では、羽田の祭りに外国語のボランティアガイドを派遣しており、国際都市おおた大使による情報発信も行っている。大田観光協会だけでできることが少ないが、プラットフォームとして関係者を結びつけることはできるだろう。
- ・ 大田観光協会が関連団体と連携しやすいように、区として支援した方が良いのではないか。

(委員長)

- ・ 第4章について、基本戦略(1)～(5)の順番を見直したい。
- ・ 誤植の修正や表現の見直し等は合わせて行いたい。
- ・ 素案に写真や実施例が掲載されているが、パブリックコメントの段階では写真を掲載せず、なるべく文言のみで区民に提示したい。

(委員)

- ・ 16ページの「実施例：大田区の特区民泊」に記載されているビジネスホテルは廃業予定である。

(委員長)

- ・ 最終的には写真等を掲載するが、パブリックコメントの段階では掲載しない。

(委員)

- ・ 「施策②ユニークベニユ어의開発」(25ページ)について、具体的な開発計画があるのか。

(事務局)

- ・ ユニークベニユ어は1つのキーワードとして記載した。現在、具体名が出せるほど検討が進んでいるわけではないが、MICEを推進する上で必要と考える。

(委員長)

- ・ 第5章「1. 6つのチカラを結集した大田区観光の推進」(28ページ)では、「大田区では、～を図ります」との記述があるが、「大田区観光の推進においては、～を積極的に進めます」という表現が良いと思う。もっとコンパクトに必要な要件のみに言及した方が良くもかもしれない。
- ・ 本日いただいた意見について細かく対応を図っていきたい。パブリックコメント案ができた段階で改めて委員に諮りたい。それまでは事務局と委員長に一任していただきたい。

(委員全員)

- ・ 異議なし。

(委員)

- ・ 資料3(骨格版)に、プランの特徴があるが、基本戦略の特徴が書かれていない。特徴を骨格版の一番上に掲げた方がよりわかりやすいのではないかと。

(委員長)

- ・ 確かに一番上にあった方が良い。

(委員)

- ・ ふるさと発展ブックを発行する予定である。同ブックは地域の魅力を取りまとめているため参考になるかもしれない。

4. 今後の予定

(事務局)

- ・ 平成31年1月7日(月)～1月25日(金)までパブリックコメントを実施する。また、1月11日(金)には区民説明会を開催する予定である。
- ・ 第5回委員会は平成31年3月4日(月)に開催する予定である。

(委員長)

- ・ パブリックコメントの実施期間は確定か。

(事務局)

- ・ 現時点の日程案である。
- ・ パブリックコメントの実施開始前に、委員にパブリックコメント案を送付したい。

(委員長)

- ・ パブリックコメント案にはプランの検討体制・経緯は添付しないという理解で良
いか。

(事務局)

- ・ 添付しない予定である。

5. 閉会

事務局から閉会が宣言された。

以上